

I 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、市民の生活環境への意識、市の施策に対する評価及び市政への意見・要望を把握し、本市の市政運営の資料として活用することを目的とする。

2. 調査設計

- (1) 調査地域：八王子市内全域
- (2) 調査対象：市内在住の満20歳以上の男女個人
- (3) 対象者数：3,000人
- (4) 調査方法：郵送配布・郵送回収
- (5) 調査期間：平成26年5月15日～5月30日
- (6) 抽出方法：住民基本台帳からの層化二段無作為抽出法
 - ・層化・・・「八王子ビジョン2022」で示された6地域に区分する。(下の地域区分図参照)
 - ・地点配分・・・(6地域)14管内の調査対象人口に応じて調査数を配分。
 - ・対象者抽出・・・14管内別に無作為抽出。

【本調査における地域区分】

- 中央地域：本庁管内
- 西部地域：元八王子・恩方・川口
- 西南部地域：浅川・横山・館
- 北部地域：加住・石川
- 東南部地域：由井・北野
- 東部地域：由木・由木東・南大沢



- (7) 調査機関：株式会社タイム・エージェント

3. 調査項目

- (1) 定住意向
- (2) 地球温暖化
- (3) 都市交通
- (4) 「八王子ビジョン2022」の施策指標の目標値に対する達成度
- (5) 市政への要望

4. 回収結果

- (1) 対象者数：3,000人
- (2) 有効回収数：1,705票（有効回収率56.8%）

5. 報告書の見方

- (1) 集計は、小数第2位を四捨五入している。したがって、数値の合計が100%ちょうどにならない場合がある。
- (2) 回答の比率（%）は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100%を超えることがある。
- (3) 基数となるべき実数は、n（件数）として表示した。その比率は、n（件数）を100%として算出した。
- (4) 本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) 分析の軸（＝表側）として回答者の属性や設問は、「無回答」を除いているため、各回答者の属性と基数の合計が全体と一致しない場合がある。また、クロス軸のカテゴリは性別・年齢別・居住地域別・ライフステージ別・職業別としている。
- (6) 割合の表現については、以下の表記を基本とする。

<例>

表記	4割	約4割	4割強	4割台半ば	5割近く	5割弱
範囲	40.0%	40.1～40.9%	41.0～43.9%	44.0～45.9%	46.0～48.9%	49.0～49.9%

また、クロス軸の分類や質問における選択肢を統合し、《 》を用いて記述している場合がある。

<例>

「非常に満足」と「やや満足」を統合して《満足》

6. 標本誤差

標本誤差（サンプル誤差）はおおよそ下記の通りである。

層化二段無作為抽出法の標本誤差は次の式によって得られる。標本誤差の幅は、比率算出の基数（n）、及び回答比率（P）によって異なる。

$$b = \pm 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b : 標本誤差
 N : 母集団数
 n : 比率算出の基数（サンプル数）
 P : 回答比率

例えば、n=1,705であり、ある設問の「はい」という回答率が20%である場合、標本誤差は20%を中心に±2.7%の範囲内となり、標本誤差を踏まえた回答比率は17.3%~22.7%の間であると見ることができる。

同様に計算した標本誤差の早見表を以下に示す。

回答比率(p) 基数(n)	5%または 95%前後	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,705	±1.49%	±2.05%	±2.74%	±3.14%	±3.36%	±3.42%
1,500	±1.59%	±2.19%	±2.92%	±3.35%	±3.58%	±3.65%
1,000	±1.95%	±2.68%	±3.58%	±4.10%	±4.38%	±4.47%
500	±2.76%	±3.79%	±5.06%	±5.80%	±6.20%	±6.32%

上表は $\frac{N-n}{N-1} \cong 1$ として算出している。この表の計算式の信頼度は95%である。

